

## 原 著

# 患者に望まれる薬剤師を目指して 第3報 魚沼病院薬剤部の研修会『ドラゴン桜トライアル』の試み

魚沼病院、薬剤部；薬剤師<sup>1)</sup>、中条病院、薬剤部；薬剤師<sup>2)</sup>、豊栄病院、薬剤部；薬剤師<sup>3)</sup>

佐藤 夏世<sup>1)</sup>、山田加代子<sup>1)</sup>、丸山 歩<sup>1)</sup>、杉田 貴弘<sup>1)</sup>、  
庭野 旬子<sup>2)</sup>、入倉 律子<sup>3)</sup>、中村 博<sup>1)</sup>

目的：患者指導においては専門知識を有した資格者が望まれており、薬剤管理指導業務や外来患者への応対時では、分野に偏らない知識を持つことも不可欠である。そこで医薬情報担当者(MR)に業務終了直後、当院薬剤部に各メーカーの得意分野に関して講義してもらう『ドラゴン桜トライアル』を提案し、実践した。

方法：講義対象者は当院の薬剤師5名、講義時間は10分間、テーマやテキストは自由で、スモールグループディスカッション(SGD)形式とした。ただし製品説明のみでは不可とし、学術内容を加えていただいた。その後、参加MRと講義を受けた薬剤師にアンケート調査を行った。

結論：2007年10月から2008年8月までの10ヶ月間に9社から計37回の講義が行われた。ドラゴン桜トライアルでは、業務後すぐに始まり時間のロスがなかった。また、質疑応答も納得するまで活発に行われた。講義回数が多く、1回の所要時間が長時間の講演会などよりも薬剤師の理解度は高いと思われる。講師MRの負担増加が懸念されたが、現場の状況を聞いたり、仕事に活かせる情報を得る場として理解していただき、有意義な会になっている。

キーワード：スモールグループディスカッション(SGD)、短時間、少人数、勉強会、医療情報担当者(MR)

## 緒 言

第1報でのアンケート結果(1)から、患者指導においては、その内容に関しても有資格者が望まれていた。近年、専門薬剤師(2)などの専門性の高い資格取得の動きが活発になっているのは、世論を反映しているとも言える。しかしながら、厚生連魚沼病院(以下、当院)は中規模病院であり、転勤もあることから取得できる資格は限られている。それでも、患者への応対時には分野に偏らない知識を持つことも不可欠である。専門的かつ幅広い知識を身につけるには、講演会や研修会、特にSGD(スモールグループディスカッション)(3)(4)などへの参加が効果的と考えるが、時間や場所の都合などから、多くの勉強会に参加することが日常の業務や生活上、困難なことも少なくない。

そこで、薬剤部全員の知識の底上げとさらなるレベ

ルアップを目指し、東京大学合格までの知識付けの方法を示したコミック『ドラゴン桜』(5)を手本とした勉強会(以下、トライアル)を提案し、実践している。今回、その内容について報告する。

## 対 象 と 方 法

### 方法

2007年10月よりメーカーに対して掲示板で参加を呼びかけ、申し出のあったメーカーから随時都合の良い日程にある条件のもとで講義を開いてもらった(表1)。

その後、参加メーカーおよび講義を受けた薬剤師にアンケート調査を行った。

### アンケートの方法

対象はトライアルの講義を担当した参加メーカー(MR)8名と講義を受講した当院薬剤師5名とした。アンケート内容は、A4用紙、両面構成、1枚で、回答方法は自己記入方式とした(表2)。

## 結 果

### 実施された講義スケジュール

2007年10月から2008年8月までの11ヶ月の間に計9社より15分野、37回の講義が行われた(表3)。講義形式は、パソコンを用いたスライド画面を見ながら座学で講義を聞くものが大半を占めたが、中にはそうした通常の講義形式にはとらわれず、実践形式で医療器具などの使用方法を学ぶ講義も行われた。

講義分野についてはメーカーが自由に設定するか、メーカーが提示する範囲内で受講者が次回の講義内容を指定することもあった。各種疾患や薬物治療を中心に、新聞等で取り沙汰された医療関係の話題や最新のガイドラインの改訂内容にも触れることができた。

各講義の資料はメーカーの用意したスライド資料、ガイドライン等の冊子、患者向けパンフレット等様々であった。

参加人数は当院薬剤師5名と少数ではあったが、その分講義後の質疑応答では時間に制限されることなく、質問が出尽くすまで活発に質問が繰り返された。

## アンケートの結果

## ① 参加人数

トライアル参加人数については、薬剤師1名が「少ない」、それ以外はメーカー、薬剤師の全員が「ちょうどいい」と回答した。「ちょうどいい」理由として、「話しやすい」「質疑応答が活発」「全員が質問できる」などが挙げられた。

## ② 講義時間

10分に設定した講義時間についてはメーカー3名が「講義を10分以内に収められない」「同じ講義内容を複数回に分けることに抵抗がある」ため「短い」、メーカー5名、薬剤師全員は「ちょうどいい」と回答した。

## ③ 質疑・応答時間

質疑・応答時間は毎回30分以上になることが多い、1時間を過ぎることもあったが、メーカー全員と薬剤師2名が「ちょうどいい」とした。メーカーは「現場の状況を教えてもらえる」「メーカー側にも勉強になることが多い」、薬剤師は「納得するまで質問できる」との理由だった。一方、「長い」と回答した薬剤師の理由は「残った仕事を講義後にすることになるので帰りが遅くなる」だった。

## ④ 講義スケジュール

講義は単回で行われた分野を除いては、講義回数平均4.3回であった。スケジュールはすべてメーカー側で決めてもらった。メーカー5名が「負担にならない」、3名が「負担になる」とした。

薬剤師は週に数回、ほぼ毎週講義を受けることもあった。3名が「負担にならない」、2名が「負担」とした。

## ⑤ 会場設定

会場については、メーカー1名を除いた全員(メーカー、薬剤師)が「負担にならない」と回答した。薬剤師は「移動時間がいらぬ」「業務の延長として講義を受けられる」、メーカーは「医師へのフィードバックもできる」「すべての質問の回答を次回全員に伝えられる」などの理由からであった。

## ⑥ 「自社の製品説明のみは不可」の条件について(メーカーのみ)

メーカー6名が「これでよい」と回答した。1名が「他社製品の話はしづらい」、1名が「少しは紹介できるので問題ない」と回答した。

## ⑦ メリット・デメリット

メーカーのメリットとして「単発の勉強会と違って情報収集しやすく、その後コミュニケーションがとれる」「仕事に活かせる情報やきっかけが見つかる」「メーカー側からの情報提供のみ、という一方通行の関係でなく、薬剤師の不明に感じている点、欲しい情報や現場の状況をメーカー側が知ることができる」、デメリットとして「売り上げにつながりにくい」などが挙げられた。

薬剤師のメリットとして「移動の手間がないため時間的に効率がよい」「業務延長の感覚で受講できるので、頻回でもあまり負担にならない」「周りに気兼ねなく納得するまで質問できる」「テーマをこちらから提示できる」、デメリットとして「頻繁に訪問のないメーカーからは講義を受けづらく、講義が望めないジャンルがある」「質疑応答が徐々に雑談になってしまう」などが挙げられた。

## 考 察

このトライアルでは1回の講義時間を短く、同じ内容の講義を数回に分けて繰り返し行う、開催場所を当院内に、といった設定の工夫をしている。

受講人数は当院の薬剤師全員で5人と少ないが、メーカー、薬剤師とも「ちょうどいい」人数であると捉えている。少人数の講義であることから、話しやすい雰囲気が生まれ、質問も全員が納得するまですることができる。それによって各個人の得意および苦手な分野が明確になる傾向があり、その後の業務時の情報交換にも役立つ。

講義が短時間であることで、その中で学習できる範囲は限られている。が、その分集中して飽きることなく受講でき、確実に理解したうえで次の講義に進むことができる。範囲が狭いことによってポイントを絞って聞くことができるため、質問をするうえでも利点となっている。一度に覚えられる量を考えても、短時間で繰り返し同じテーマの講義を受ける方が記憶に残りやすいと言える。また、個人での学習は内容を理解し記憶するだけにとどまるが、少人数のグループでの学習では理解に加えてその場で学習内容を整理し話し合うことができる。内容の理解そして整理も同時に行うことでより効率のよい学習を進めることができる。しかし、メーカーからは「頻回では学術担当からの講義はできない」との声もあった。理解度が上がる一方で、残念ながら講義の幅は狭まってしまいうる。

質疑応答の時間については、「長い」と感じている薬剤師3名(60%)の場合、講義開始時には残業を切り上げて参加していることが多く、帰宅が遅くなるなどの理由であった。1日なら小さな負担ですむが、頻回のスケジュールになると積み重なって負担は大きくなる。同じテーマの講義を分割することの欠点があるところと考える。

会場について、移動の時間がいらず業務の延長で受講できるため、薬剤師の立場からは負担の理由はない。時間や場所を薬剤師に都合のいいように設定しているため、講義を担当したメーカーにかかる負担が増えることが懸念されたが、仕事に活かせる情報を得る場としても有意義な会になっているようだ。

現在は講義されていない分野も多いが、今後はその穴を解消し、さらに発展させて症例をもとにディスカッションできるレベルにステップアップすることも視野に入れながら、このトライアルを継続中である。

## 引用文献

1. 杉田貴弘ほか. 患者に望まれる薬剤師を目指して、第1報、生活習慣改善指導に関する理想の医療従事者像を探る. 日本病院薬剤師会関東ブロック第38回学術大会講演要旨集、2008.
2. 月刊薬事編集委員会. プラスアルファの薬剤師になる. 月刊薬事9月臨時増刊号 2008; 50: 7-20.
3. 鷲見正宏ほか. 「生活習慣病指導薬剤師研修会 in 横浜」を開催して～スモールグループディスカッションを中心とした能動的な研修会の意義～、日本病院薬剤師会関東ブロック第37回学術大会講演要旨集、2007.

- 4. 片桐歩ほか. 第2回新潟県糖尿病ネットワークを開催して. ジャニファ 2008; 168: 22-23.
- 5. 三田紀房. ドラゴン桜全21巻. 第1刷. 東京、講談社、2005~.

英文抄録

Original article

Aiming to become a pharmacist desired by patients through study sessions after working hours, called "Dragon Cherry Trial", the third report

Uonuma Hospital, Pharmaceutical department; Pharmacist<sup>1)</sup>, Nakajo Hospital, Pharmaceutical department; Pharmacist<sup>2)</sup> Toyosaka Hospital, Pharmaceutical department; Pharmacist<sup>3)</sup>  
 Natsuyo Sato<sup>1)</sup>, Kayoko Yamada<sup>1)</sup>, Ayumi Maruyama<sup>1)</sup>, Takahiro Sugita<sup>1)</sup>, Junko Niwano<sup>2)</sup>, Ritsuko Irikura<sup>3)</sup>, Hiroshi Nakamura<sup>1)</sup>

Objective: A scholar of qualification having technical knowledge was needed in the patient guidance and a balanced knowledge was required in both medicine management guidance duties and outpatient supports. Therefore we proposed study sessions by

a medical representative (MR) just after the working hours, called as "Dragon Cherry Trial". In this time we examined and reported its significance.

Method: The participants were five pharmacists of our hospital and the theme and contents was free-form. Ten-minutes small group discussion (SGD) was performed. But each product explanation should include basic scientific contents. Then we performed questionnaire survey to the participating pharmacists.

Results and Conclusion: 37 times of lectures have been performed for ten months from October, 2007 to August, 2008 by nine companies. On these "Dragon Cherry Trial" study sessions, there was no loss time before the opening time just after working duties. In addition, the questions and answers were performed lively till we understood. It seems that the intelligibility in our short study sessions was higher than that in a classical long time-comsummed lecture. Burden of the lecturer MR had been worried, but they could understand our present scholarly conditions. Our study session becomes the significant meeting.

Keyword: Small group discussion (SGD), a short time lecture, study session, medical representative (MR)

表1 トライアルの条件

開催場所 : 魚沼病院薬剤部  
 講義対象者: 魚沼病院薬剤師 5名  
 講義担当者: 各製薬メーカー  
 講義時間 : 10分間 (平日の業務終了後)  
 その後質疑応答  
 テーマ : 自由 (製品説明のみは不可)

表2 アンケート

- ① トライアルの参加人数についてどう思われましたか?
- ② 講義時間は10分と設定されていますが、いかがでしたか?
- ③ 質疑・応答の時間が30分以上になることが多いですがどう感じますか?
- ④ 頻回の講義スケジュールを組んでいます、負担になりませんか?
- ⑤ 会場は魚沼病院薬剤部ですが、1つの病院に出向く時間や手間は負担ではありませんか?
- ⑥ 「自社の製品説明のみは不可」との条件をつけさせていただいていますが、そのことによるやりづらさなどはありますか? (メーカーのみ)
- ⑦ その他、ドラゴン桜トライアルについてメーカー (薬剤師) 側として感じるメリット・デメリットや、通常の勉強会とは違う点があれば教えてください。

表3 講義スケジュール

メーカー	テーマ	2007年			2008年								計(回)	
		10月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8		
塩野義	抗生剤	1	1											2
ノボルディスク	DM		2	1	1	2								6
第一三共	CKD		1	2	1					1				5
エーザイ	ワーファリン			1										1
第一三共	不整脈					1	1	1						3
小野	LCS(運動器疾患)					2								2
大塚	輸液					1	2	2	1		1	1		8
小野	喘息						1							1
小野	膝炎						1							1
帝人	骨粗鬆症							1		1	1			3
帝人	メタボとDM								1					1
シェリングプラウ	肝炎								1					1
第一三共	NSAID							1						1
ロシュ	SMBG									1				1
塩野義	麻薬使用法										1			1
計(回)		1	4	4	2	6	5	4	4	2	4	1		37